

国際理解セミナー

「ミャンマーを知ろう！」を開催しました



11月9日(土)、牧田コミュニティセンターにて国際理解セミナー「ミャンマーを知ろう」を開催しました。ミャンマーと言えば、今まさに激動の真っ只中にある“ホットな国”。約20年に渡って続いた軍事政権が終わり、現在すさまじい勢いで民主化が進んでいます。

そんなミャンマーを取り上げて、鈴鹿国際大学・国際ビジネスコースの4年生のススさんを講師にお招きし、現在のミャンマー事情も含め、ミャンマーという国について、お話していただきました。

以下は、ススさんのお話です。



私の名前はススです。いつも「ススです。」と名乗ると必ず「苗字はなんですか？」と聞かれます。でもこれでフルネームです。

「スス」という名前は、生まれた曜日が火曜日だったので、その文字から取っています。「みんなに認められる」「仕事もちゃんとしてお金も溜められる」という意味があります。埃の“すす”とは違います。(笑)

そしてミャンマーの挨拶「ミン ガ ラ バー」は、「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」全ての挨拶に使えます。

ミャンマーは、タイ・ラオス・中国・バングラディッシュに囲まれていて、昔から周りの国とは貿易をしていましたが、まだ発展はしていません。いよいよ、これから大きく発展していく時です。

私は、来日当時、日本に国際空港がいくつもあることに驚きました。ミャンマーにはヤンゴンにひとつしかない。ミャンマーはまだ貧乏な国だ、と思いました。(※現在は、ネピドー国際空港が2011年12月に開港しています)

ミャンマーは夏がすごく暑く、私の故郷のマンダレーは、特に暑い所で40℃近くまで気温が上がります。昨年は42℃を記録しました。

逆に、雪は見たことがなかったです。日本の冬は、とても寒いけれども、今は少し慣れました。

ミャンマーは、昔はビルマという国でした。私が日本に来た初めの年、アルバイトを探す時、「ミャンマー」と言っても誰も判ってもらえなかったです。(実際には1989年には、国名はミャンマーに変わっていたのですが・・・)「ビルマの堅琴」と言うと、判ってもらえました。

ですから、アルバイトを探す時も、30軒～40軒廻って、ようやくたこ焼き屋のアルバイトが見つかりまし

た。

親に迷惑をかけずに生活費や学費を稼ぎたかった。自分の力で頑張りたいと思っていましたから、もうどこでもよいから仕事を見つけたいと思いました。

(日本でも、1990年にアウンサンスーチーさん軟禁のニュースは流れましたので、ミャンマーのことは認知していたと思うのですが、ススさんはこのような経験から、初めて世界がミャンマーという国を意識したのは、2010年にアウンサンスーチーさんが解放された時ではないか?という感覚があるようでした。)

1989年に国名がミャンマーに変わったことは、私達国民は知らなかった。いつの間にか変わっていました。同じように、首都がヤンゴンからネピドーに変わったことも、後で知りました。

現在、アウンサンスーチーさんは、民主化のリーダーとして動いていますが、主に戦っているのは、宗教の問題です。ミャンマーにはたくさんの宗教があり、80もの民族が居ます。

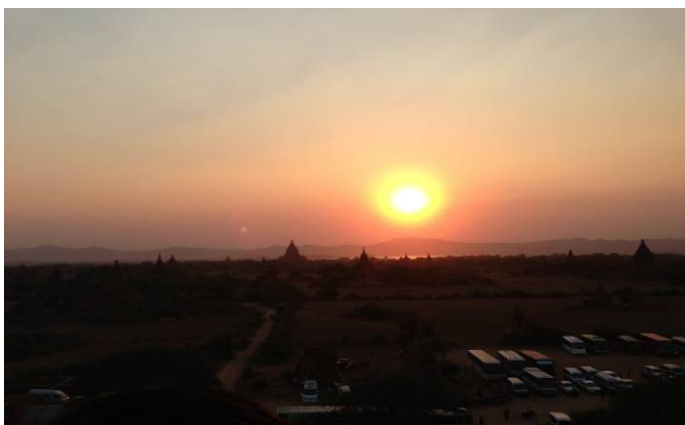
地域によって、色々な民族が居ますが、全てに共通することは“ミャンマー語”。同じミャンマー人だと言うこと。アウンサンスーチーさんは、同じミャンマー人がミャンマーで心をひとつにしてやっつけていかなければならない。と言っています。

ミャンマーは、アウンサンスーチーさんのお蔭で今は自由です。例えば、以前は彼女の家の前は通れなかったのですが、2010年以降、観光客もそこで写真撮影が出来るようになりました。

それから、留学をすることも以前はチェックが厳しく、特に女性には大変厳しかったのですが、今は自由になりました。



ミャンマーは仏教の国。私が日本に来て驚いたのは、日本のお坊さんの中には、髪の毛があったり、家族があったりするのでびっくりしました。ミャンマーでは、お坊さんになったら剃髪をし、お寺に住んで、仏の教えを説きます。そして、人々がお祈りする時は、自分の為、家族の為だけでなく、みんなの為、世界の為にもお祈りをします。そして、祈りを通して、相手を愛する心を育てます。



↑ ここは、バガンという所で、ビルマが始まった街です。ススさんの故郷マンダレーもすごく暑いそうですが、ここはそれ以上だそうです。

日本人観光客が一番多い所で、夕日を見る有名な観光スポットだそうです。

ここもバガン。ここは、昔のままの景色で、ヤシの実からお酒を作っている所だそうです。他に、黒砂糖も作っていて、その場で試食が出来るそうです。

ミャンマーのお料理は、全部辛いわけではないし、カレーばかり食べているわけでもありません。現在は、日本料理も中華料理もたくさんあります。



左の写真は、ミャンマーで外食する際、無料で出る料理です。これに、メインの料理、例えば豚や鶏のカレーなどを注文します。値段は、以前は50円位でしたが、都市部では、値段が上がってきていて、最近は150円位します。

ミャンマーのお母さんは、朝ご飯を作らないことが多く、朝市で買い物をした後、朝ご飯を買ってくることが多いです。お店で食べると、50円でお腹がいっぱいになります。

しかし、物価が上がってきているので、来年にはもっと値段が上がるだろうと思います。

ミャンマーでは、お肉は、鶏・豚・牛・ヤギを食べます。魚は、海の魚は少なく、鯉が一番よく食べます。野菜も新鮮で無農薬のものが多く食べられますし、果物はマンゴーが一番美味しいですね。マンゴーは、いつも箱で買います。50個で500円位で買えます。安いですね。



今、ミャンマーは日本からの企業の進出が多く、あちらこちらでインフラ整備が進んでいます。たまに帰ると、高速道路が出来たりして、道路事情がすっかり変わっていて、前は、家に帰る道が分からなくなっていました。

ミャンマーの人は、日本車が大好きです。中国の新車より、日本の中古車の方がよく売れています。車の保有数がぐんと増えたせいで、交通も大変混み合っています。しかし、まだまだ道も悪く、インフラも追い付いていない状況です。

都市化は進んでいるものの、それは、ヤンゴンとネピドーなどの都市だけで、地方の生活のレベルは、まだまだあまり変わっていません。

ミャンマーの刺繍は、観光客に人気です。学校に行っていない子は、一日80円~100円で刺繍の物を作って働いています。

教育を受けていない子供も、まだまだいます。

(ススさんは、実物の刺繍やミャンマーの国旗やお金、腰巻スカートのロンジンなども、持って来て見せて下さいました。)





ミャンマーのお正月は4月。とても暑い真夏で、この頃に水祭りがあります。
男性が女性の肩に優しく水をかけて、女性は民族衣装を着て踊ります。

ミャンマーの成人式は、男性がお坊さんになり、女性は尼さんになります。
私も成人式の時は、頭を剃って尼さんになりました。



ススさんがお話されたことで、印象的だったことがふたつあります。
ひとつは、「もっと親に楽をさせてあげたい。もっと美味しい物を食べさせてあげたい。もっと生活をよくしたい。」と親を大変敬っていて、親孝行で、しかも向上心がとても高いこと。
そしてもうひとつは、「日本人は、みんな優しい。わからないことがあったら、とても親切に教えてくれる。駅で電車の乗り方を尋ねたら、おじさんやおばさんが電車に乗せてくれる。お手本にできることが多い。日本の文化は良い点がたくさんあり、真似したいところがいっぱいある。日本のお母さんは、しっかりしていて綺麗。」と、日本の良い点をたくさんたくさん挙げてくれたことです。

ススさんは、ミャンマーに居ても、国で通訳が出来たそうです。では、何故日本に来たか？
日本の学生と比べたら、自分は小学生みたいだ、と思ったそうです。世の中のことをもっと知りたい。世界に出たい。違いを見たい。知識を増やしたい。では、何故アメリカに行かなかったか？アメリカは自由すぎて怖かったそうです。ミャンマーは、規律が厳しかったので、あまり自由すぎる所は怖かったそうです。そこで、日本語学校の先生たちが、皆非常に優しくかったので、日本に来ることを決めたそうです。

このように、日本が大好きなススさんが、日本の将来を思い、憂えていることがあるそうです。
それは、日本の若者が携帯ばかりいじっていること。もっとコミュニケーションを取って欲しいとおっしゃっていました。

「日本人は、100人に会ったら100人が優しいです。」とススさんは、おっしゃいました。
実際はどうでしょうか？
できれば、そうあり続けたいものです。

さて、講演の後、ススさんは、私達にミャンマーの踊りを踊って見せてくれました。
手の動きがとても綺麗で、素敵な踊りでした。

踊りの後は、ミャンマーコーヒーとミャンマー名物“お茶の葉サラダ”をみなさんに振舞いました。



↑お茶の葉サラダ「ラペット」



↑ミャンマーコーヒー

お茶の葉を発酵させた漬け物に、揚げ豆・キャベツ・トマトを混ぜてレモンを絞って食べます。



↑お茶の葉の漬物



↑揚げ豆数種がパックになったもの

全員ではありませんが、最後まで残って下さった参加者の皆様と記念写真♪ ↓

